

## 3

## 九州ブロックのHIV医療体制整備

研究分担者 山本 政弘

(独)国立病院機構九州医療センター AIDS/HIV 総合治療センター 部長

研究協力者 南 留美

(独)国立病院機構九州医療センター AIDS/HIV 総合治療センター

## 研究要旨

昨今のHIV医療の進歩による患者高齢化等に伴い、地方においても地域におけるHIV包括ケアシステムの構築の促進が必要となってきた。特に感染から35年近く経つ薬害被害者は年齢的にも高齢化しつつあり、介護福祉をはじめ慢性期医療や生活習慣病など長期療養が喫緊の課題となってきただけでなく、特に地方ではその特異性から個々に違った療養環境問題を抱えるとともに、地方においてはその患者数の少なから孤立する患者も存在するため、個別の救済も必要となってきた。本研究では個別救済としての慢性期医療や介護などとの連携促進を図った。

さらに以前より継続してきたブロック内におけるHIV医療の均てん化のため、各中核拠点病院、拠点病院の研修も行った。

## A. 研究目的

昨今のHIV治療の進歩による患者の予後改善とともに患者高齢化による介護や、肝炎や腎疾患、精神疾患など多くの合併症の進展などが、特に感染から35年近くが過ぎた血友病患者等で大きな問題となっており、専門の拠点病院だけでなく多くの一般専門医療機関や介護などの施設も含めた慢性期医療体制の構築、地域における医療連携の必要性がより一層強まっている。しかしながら未だに根強い差別偏見に基づく医療、介護拒否が特に地方においてはみられる。

本研究はこのような地方におけるエイズ医療の問題点の把握と地方におけるエイズ医療向上を目指して行なったものである。

## (倫理面への配慮)

本研究においては患者人権とくにプライバシーの保護は重要であり、特に配慮を行なった。

## B. 研究方法、C. 研究結果、D. 考察

## 1. HIV感染動向

他ブロック、特に都市部においては昨今新規感染報告数が頭打ち～微減傾向にあるが、九州ブロッ

クにおいては依然増加傾向が継続しており、総人口が九州ブロックの約1.5倍ある東海ブロックと同程度の報告がなされている。(図1)ブロック内各県ごとにその特徴は違うが、特に増加傾向のある福岡県などでは50歳以上の比較的年齢の高いMSM層でのAIDS発症での診断が目立っている。こういった層への検査促進を含む啓発活動の遅れが指摘されるが、一方医療体制整備の面からもすでに生活習慣病など合併症が多い年齢の高い層でのAIDS発症はさらに多くの後遺症を残す原因となり、要介護要支援患者を増加させる要因ともなっており問題となっている。

## 2. 九州ブロックにおける地域連携推進

## B. 研究方法

長期療養に伴う二次病院、療養施設、介護施設などにおける患者受け入れ促進などを目的として、戦略的な研修を行なった。

## C. 研究結果

## (1) 長期療養施設の受け入れ

施設長などを対象とした研修会、対象となる施設的全職員を対象とした出前研修、実地研修など段階を追った研修を積み重ねることにより少しずつで

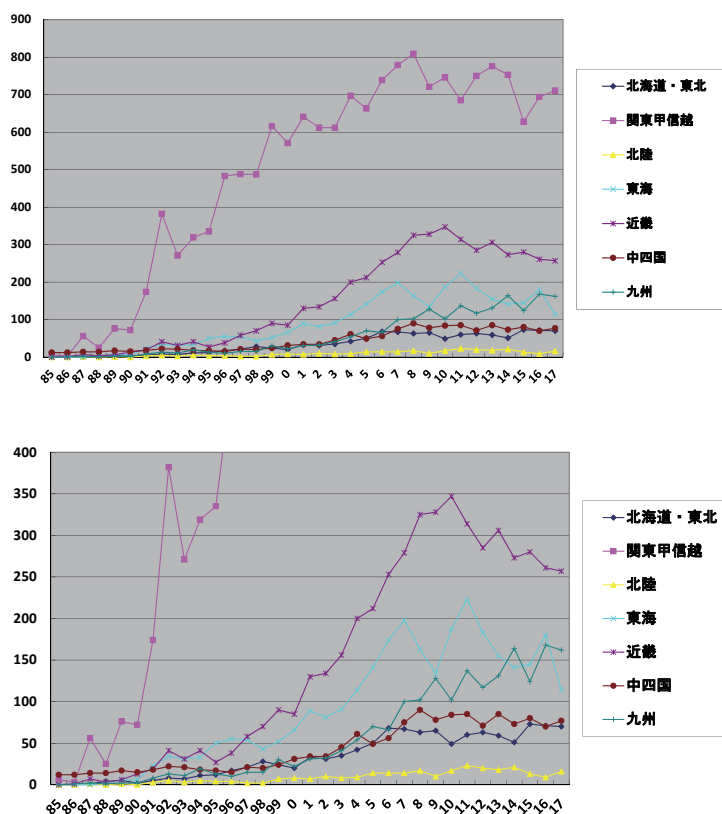


図1 地域別HIV/AIDS新規報告者数年次推移（上）地域別HIV/AIDS報告者数年次推移（下）

はあるが、受け入れ施設が増加している。

また今年度からやっとではあるが福岡県において福岡県歯科医師会主導にて129カ所の歯科ネットワークが構築された。実際の稼働はこれからであるが、参加施設も増加しており、これをモデルとして各県にもネットワークを広げていきたい。

その一方、二次病院、介護施設などの受け入れは少しずつ増えてはいるものの、まだまだ不十分な状況が続いている。いくら拠点病院が努力をしても、介護施設などからはなぜ一病院がこのような研修を行うのか、保健所などの仕事ではないのかという指摘も多く、行政からの働きかけがない場合、行政は受け入れ拒否を黙認していると認識されてしまう危険性がうかがえる。今後はより一層行政の協力が必要である。

平成30年度出前研修実績

### 3. 九州ブロックにおける個別救済

#### B. 研究方法

九州ブロックは都市部と違い、薬害被害者は地方で孤立していることが多く、また血友病の後遺症や肝炎など多くの合併症もあり、個々にその問題点は

違うため、個別の救済が必要である。ブロック拠点病院と地域の拠点病院の連携のもと個別に救済を行えるよう、次のような活動を行った。

#### (1) 地域臨床カンファレンス

地域連携、福祉など多岐にわたる問題をもつ患者をブロック拠点病院の多職種チーム、該当拠点病院のチーム、行政関係者、地元の福祉担当などとカンファレンスを行い、解決策を模索するものである。

#### (2) 精密検査入院パス

地域で種々の問題を抱える患者を短期間ブロック拠点病院で入院させ、精密検査を行った上で、治療方針の決定、療養環境の環境の整備等を行い、個別救済に結びつけた。

#### (3) 長期療養支援チームの発足

九州医療センターでは医師1名、専任看護師1名、カウンセラー1名、専任MSW1名よりなる長期療養支援チームを本年度よりAIDS/HIV総合治療センター内に発足させた。これは地方で孤立する患者は個々でその問題や環境が違っているため、よりよい医療連携、療養環境の整備を個別に改善させる目的で行った。

平成30年度出前研修実績

	月日	実施施設	人数
1	4月11日	訪問看護ステーション き・ら・ら	10
2	4月24日	はびね福岡野芥	17
3	5月9日	ライフケア上山門	11
4	5月17日	桃ネット（講師：県立宮崎病院）	？
5	5月23日	特別養護老人ホーム白熊園	20
6	5月29日	あっとほーむ香椎下原II	5
7	6月8日	医療法人社団広仁会広瀬病院	25
8	6月9日	福岡市訪問看護ステーション連絡協議会	30
9	6月29日	スターフィールド株式会社	29
10	7月4日	訪問看護ステーション えんまんサテライト南	12
11	7月18日	アルファリビング福岡原	10
12	8月2日	一般社団法人友愛アクト事業所	5
13	8月9日	水北第一病院（講師：産医大）	45
14	8月16日	エフコープ介護サービス福岡西	9
15	8月28日	どい内科クリニック	41
16	9月8日	社会福祉法人大野城市社会福祉協議会	18
17	9月10日	うきは社会福祉協議会（講師：産医大）	21
18	9月12日	北九州市立戸畑障がい者地域活動センター （講師：産医大）	20
19	9月12日	高齢者総合ケアセンター （講師：久留米大）	14
20	9月28日	特別養護老人ホーム 長光園 （講師：飯塚病院）	50
21	10月3日	社会医療法人栄光会栄光病院	80
22	10月18日	社会福祉法人福津市社会福祉協議会	20
23	10月19日	特別養護老人ホーム日迎の園 （講師：飯塚病院）	20
24	11月15日	北九州市戸畑区医師会 （講師：産医大）	40
25	12月12日	八女市歯科医師会（先方より招聘）	×
26	12月28日	ひばり訪問看護ステーション	6
27	1月9日	夫婦石病院	109
28	1月15日	社会福祉法人宗像市社会福祉協議会	42
29	1月16日	山茶花在宅クリニック（アンケート無し）	×
30	1月25日	福岡南デイスサービスセンター	15
31	1月28日	那珂川市社会福祉協議会指定居宅介護 支援事業	23
32	2月25日	那珂川市社会福祉協議会	
33	3月23日	福岡赤十字病院デイホスピスいこい	

C. 研究結果

(1) (2) とともに数～十数例の利用があり、これにより個別に救済や療養環境整備につなげることができた。(3) に関してはこれからであるが、すでに何例かにチームメンバーが患者のもとへ実情調査に赴くなど少しずつ実績を重ねている。

4. ブロック内におけるHIV医療の均てん化

B. 研究方法、C. 研究結果、D. 考察

この研究班では長年種々の方法を用いて格差是正、均てん化を目指してきた。今年度もブロック内各県の行政、中核拠点病院、各拠点病院の協力を得てブロック内のエイズ診療における均てん化を目的とした研修会を開催した。

- (1) 均てん化を目指した中核拠点病院連絡会議（中核拠点病院対象）および行政担当者会議
- (2) ブロック拠点病院にブロック内各拠点病院職員を集めて行なう通常の研修会（ブロック内拠点病院対象）
- (3) 拠点病院職員実地研修

講演形式の研修会だけでなく、ブロック内拠点病院職員対象のエイズ診療における実地研修を当院にて行なった。

- (4) 福岡 HIV 保健医療福祉ネットワーク会議

E. 結論

九州ブロックにおいては、新規患者も含め患者高齢化の傾向が強くなり、薬害被害者も含め種々の合併症も増えてきている。そのため要介護要支援予備軍だけでなく、実際に要介護要支援の患者も増加しているが、HIV患者においては未だ差別偏見などにより、地域における包括ケアシステムからこぼれ落ちる患者も九州などの地方では決して少なくない。また被害者の個別救済においてもブロックなどの拠点病院、特に医療だけでは解決できない療養上の問題も多く、施設の垣根を越えた支援が必要であり、行政による主導がより重要となってくる。

F. 健康危険情報

なし

## G. 研究発表

分担研究者 山本政弘、南留美

## 1. 国際学会それに準ずるもの

- 1) Longitudinal change in leukocyte telomere length and mitochondrial DNA in people living with HIV. Minami R, Takahama S, Yamamoto M, AIDS 2018 22nd International AIDS Conference. 24 July, 23-27 July 2018, Amsterdam, the Netherlands

## 2. 総会およびそれに準ずるもの

- 1) 治療に難渋したHIV合併ニューモシスチス肺炎発症例の検討 高濱宗一郎、南留美、山本政弘 第92回日本感染症学会学術講演会 2018/6/1 2018/5/31-6/2 岡山
- 2) HIV感染者における血漿Pantraxin3 濃度と生活習慣病 南留美、高濱宗一郎、小松真梨子、城崎真弓、長与由紀子、犬丸真司、山本政弘 第32回日本エイズ学会学術集会・総会 2018/12/2 2018/12/2 大阪
- 3) 抗HIV薬の残薬発生状況と認知機能の関係 合原嘉寿、大石裕樹、辻麻理子、西脇香、福田雪絵、古田加菜恵、三浦真貴子、浦上秀刀、加留部信介、西野隆、山本政弘 第32回日本エイズ学会学術集会・総会 2018/12/2 2018/12/2-12/4 大阪
- 4) HIV陽性者に認知機能低下率と関連因子ーその1ー 坂本麻衣子、辻麻理子、平野植子、山下結以、天野昌太郎、前上里泰史、松岡亜由子、松尾純子、門田隆裕、中尾綾、山之内純、山本政弘 第32回日本エイズ学会学術集会・総会 2018/12/3 2018/12/2-12/4 大阪
- 5) HIV陽性者に認知機能低下率と関連因子ーその2ー 辻麻理子、平野植子、山下結以、天野昌太郎、前上里泰史、松岡亜由子、松尾純子、門田隆裕、中尾綾、山之内純、坂本麻衣子、山本政弘 第32回日本エイズ学会学術集会・総会 2018/12/3 2018/12/2-12/4 大阪
- 6) 薬物使用経験のあるHIV陽性者における亜硝酸エステル使用が服薬アドヒアランスに与える影響 嶋根卓也、今村顕史、池田和子、山本政弘、辻麻理子、長与由紀子、松本俊彦 第32回日本エイズ学会学術集会・総会 2018/12/4 2018/12/2-12/4 大阪
- 7) エイズ診療の拠点病院の診療機能評価と課題の検討 横幕能行、今橋真弓、伊藤俊広、山本政弘、岡慎一、豊嶋崇徳、茂呂寛、渡邊珠代、渡邊大、藤井輝久 第32回日本エイズ学会学術集会・総会、2018/12/4 2018/12/2-12/4 大阪
- 8) 国内新規HIV/AIDS診断症例における薬剤耐性HIV-1の動向 岡崎玲子、蜂谷敦子、佐藤かおり、豊嶋崇徳、佐々木悟、伊藤俊広、林田庸

総、岡慎一、湯永博之、古賀道子、長島真美、貞升健志、近藤真規子、椎野禎一郎、須藤弘一、加藤真吾、谷口俊文、猪狩英俊、寒川整、加藤英明、石ヶ坪良明、中島秀明、吉野友祐、太田康男、茂呂寛、渡邊珠代、松田昌和、重見麗、岩谷靖雅、横幕能行、渡邊大、小島洋子、森治代、藤井輝久、高田清式、南留美、山本政弘、松下修三、健山正男、藤田次郎、杉浦互、吉村和久、菊地正 第32回日本エイズ学会学術集会・総会 2018/12/4 2018/12/2-12/4 大阪

9) 当院通院中のHIV感染患者に合併した急性A型肝炎の検討 高濱宗一郎、山下尚毅、山岡大将、南留美、犬丸真司、長與由紀子、城崎真弓、山本政弘 第32回日本エイズ学会学術集会・総会（ポスター） 2018/12/2-12/4 大阪

10) HIV感染患者における外来での継続的な栄養指導の効果について 安樂菜月、長岳愛美、一ノ瀬雅子、久保葵、山口留美、辻麻理子、長與由紀子、城崎真弓、犬丸真司、高濱宗一郎、南留美、山本政弘、淵邊まりな 第32回日本エイズ学会学術集会・総会（ポスター） 2018/12/2-12/4 大阪

## H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

## 1. 特許取得

なし

## 2. 実用新案登録

なし

## 3. その他

なし